



上町の町並みを歩く

相川の町並みの特徴の1つ、石垣を見る



春日崎から相川市街地を眺める



相川の景観保護のあり方を話し合う

8月6日、景観デザイン・土木・建築・文化財など、さまざまな分野の専門家6名が相川のまちなかを視察し、景観をより豊かにするためのアドバイスをいただきました。視察は、相川大工町から歩き始め、上町の特徴的

な石垣や家並みを見ながら坂道を下り、建設中の相川支所・消防署庁舎(相川栄町)などの新しい施設へもまわりました。さらに、町並み視察の締めくくりとして、春日崎から市街地を一望しました。翌日に行われた会議では、「空家や空地を積極的に活用していくことが重要だ」という意見が複数の専門家から出されました。

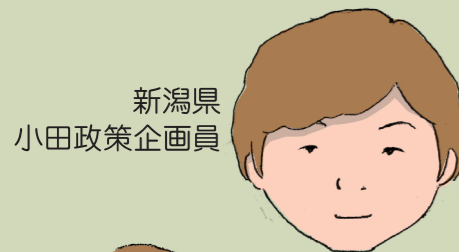
文化財や景観の専門家が相川を視察

相川 あいかわらばん 瓦版

第12号

2014年9月25日発行
発行：佐渡市世界遺産推進課
電話 0259-63-5136
FAX 0259-63-6130
編集：佐渡市世界遺産推進課
新潟県教育庁文化行政課
世界遺産登録推進室

私たちがご説明しました



新潟県 小田政策企画員



佐渡市 山口学芸員

今年の秋から冬にかけて、もう一度、その後の進捗状況をふまえて説明に回る予定です。また、それは別に下町でも説明会を開催することを計画中です。詳しい内容については追ってお知らせいたします。

相川を「重要文化的景観」という国の文化財にすることについて、7月から上町地区で個別の説明会を実施しました。上町に暮らす方々の一人ひとりの考えや疑問をお聞きし、それに添ったご説明をするために、新潟県・佐渡市の職員が約120戸の住宅を対象に戸別訪問を行い、玄関先でお話させていただくものです。(今号の2〜3面で軒先説明会の様子を報告しています)

相川上町軒先説明会



御番所橋と 相川下戸炭屋町

相川下戸炭屋町は、寛永年間に進められた下町の海岸埋立地による埋立地にてきた町で、炭を商った炭屋孫左衛門によって開発されたとされています。当町の南端には番所が置かれ、相川下戸村や相川下戸炭屋浜町との町境にある海士町川に架かる橋には、「御番所橋」という名がつけられ、番所がなくなつた後も橋の名はそのまま残りました。古写真には、馬車や家庭用ミシンの宣伝看板が見えます。



現在



昭和30年代

お知らせ 佐渡金銀山 現地ツアー開催

世界遺産暫定リストに記載されている佐渡金銀山の現地ツアーを開催します。お気軽にご参加ください。

日時：平成26年10月26日(日) 午前9時~午後3時
見学場所：鶴子銀山・相川金銀山
参加費：無料 定員：20名
申込方法：電話申込み(定員になり次第、受付終了)
TEL 63-5136 (佐渡市世界遺産推進課 佐渡金銀山現地ツアー担当)
そのほか：*佐渡市役所 本庁舎(千種246-1)で集合・解散
*見学地へはマイクロバスで移動
*昼食は各自準備 *雨天決行

あいかわらばんのデザイン：佐渡市世界遺産推進課
キャラクターデザイン：aki*kana haraguro design studio
印刷：(株)第一印刷所

第13号の予告

◆西三川の 文化的景観 ほか

次回11月25日 刊行予定

今月の にゃんじー



夏から秋へ、相川も衣替え

暑さもやわらぎ、ようやく秋らしくなってきました。道遊の割戸も、秋の表情に変わりつつあります。にゃんじーは花より団子…?

ご報告 軒先説明会



担当者から皆様へ

説明会にご協力いただいた皆様、ありがとうございます。たくさんのお話を伺うことができ、鉾山都市相川の魅力や、地域が抱える問題を再確認することができました。歴史的な町並みの保存・継承は、過疎や高齢化による留守宅・空家の増加などの課題とあわせて考えていかなくてはならないと、改めて痛感しました。そして、そのためには、これまで以上に地域の皆さんとの密な連携が必要であると感じています。

人が住んでいるからこそ、町並みは魅力的であり続けられます。今後の取組みに、軒先説明会で知り得たことを十分に活かしていけるよう努めていきます。



山口学芸員

軒先説明会のあらまし

- ◎対象地区：相川上町地区（住宅戸数：約120戸）
- ◎説明方法：新潟県・佐渡市の職員が戸別訪問して説明
- ◎説明内容：景観を文化財として守っていくことについて



①町並みを守る目的

相川にしかない鉾山都市景観を未来へ継承していくため、世界遺産登録を目指しています。そのための取組みのひとつが、鉾山とともに歩んできた相川市街地を「重要文化的景観」（国の文化財）にすることであり、将来にあたって町並みを守る仕組みづくりです。

②町並みのどしなところを守るのか

上町をはじめ、相川には、鉾山町の歴史を受けつぐ貴重な建物や、地割（敷地の形状）、石垣、坂道などが多く残り、なおかつ今でも人が暮らしている、生きた歴史地区です。大切な遺産を守りながら、人が住み続けられる環境を守るための取組みを考えていきます。

③町並みを守るための助成制度・決まりごと（案）

町並みの現状を大きく変える行為（新築・取壊し・改築など）をする場合は、事前に佐渡市にご相談ください。町並みの相川らしい魅力を大切にしながら、住みやすい環境を整えていくにはどのような手法がよいか、行政からも提案させていただくことがあります。

また、景観に配慮した建造物の修理には修理費用等の助成を行います。

説明会を通して見えてきた、鉾山都市相川の魅力や課題の一部をご報告します。

軒先説明会から見えてきた現在の鉾山都市相川

鉾山と相川に

暮らす人のつながり

坑道で働いていた男性や、鉾山事務所事務をしていた女性、父母や祖父母が鉾山に勤めていたという方など、何らかの形で鉾山とのつながりをもっている方が、今も相川に多くいらつしやいます。また、鉾石など、鉾山に関係ある物を自宅に大切に保管されている方もおられ、鉾山都市のそうした記憶も相川にしかない大切な遺産だと感じました。

鉾山町の記憶を伝える建物

歴代鉾山長の戸建住宅から二軒長屋の住宅まで、さまざまなタイプの鉾山社宅が、今も住宅として機能しています。また、関係者が集った鉾山倶楽部や、若者の社交場であったダンスホールなど、鉾山町のにぎわいを伝える建物も残っています。



佐渡鉾山の工作課の大工が作った木製の弁当箱



◎町並み保存の考え方

建物に施された改修は、生活の歴史です。ある鉾山社宅は社宅として使用された後、一時は相川拘置支所の官舎となり、その後、町営住宅となりました。建物を昔の姿に戻すことは町並み保存の一つの手段ですが、相川では、住みやすいように少しずつ手が加えられてきた町並みの今の姿を尊重したいと考えます。

今後の課題

空家や空地の対策 高齢化・過疎化が進む相川では、毎年空家・空地が増えており、多くの方が問題意識をもっておられました。住む人のいなくなった土地や建物を管理する仕組みづくりや、入居者を誘致して積極的に活用するための支援を検討していきます。

生活環境の両立 世界遺産登録後は観光客の急増も予測され、それを不安に思われている方もおられるかと思えます。相川は人が生活する場であることを念頭に置き、石見銀山などの前例を参考にしながら、案内板や散策路の整備、住宅地への地元車両以外の進入制限、見学者のマナー向上の呼びかけなどを行い、生活環境の保護を図りたいと考えています。